



那覇市民の友

第684号 毎月1回発行
2008年(平成20年)
1月

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2007(平成19)年11月末現在	
総人口	316,534 (2,108)
男女	152,767 (1,114) 163,767 (994)
世帯数	131,268 (1,285)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本庁	93,933
真和志	104,846
首里	58,040
小祿	57,607

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷(株)近代美術



2008
迎春

平和・友情・感動を胸に

第23回NHAマラソン

晩秋の南部路を駆け抜ける、太陽と海とジヨガーの祭典「第23回NHAマラソン」が12月2日(日)、国道58号旭橋交差点をスタート地点に、南部一帯を舞台に開催されました。国内最大規模の市民マラソンに成長した同マラソンに、今年は県内外・海外から過去最高の2万6千268人がエントリーしました。

そのうち、2万3千人余が、午前9時ちよつどに、翁長市長と女優の比嘉愛未さんが、師走の空に打ち鳴らす、平和の象徴・万国津梁之鐘の音を合図に、一斉にスタート。ゴールの奥武山陸上競技場をめざし、健脚を競いました。

今大会には2000年のシドニー五輪で銅、2004年のアテネ五輪で銀と2大会連続メダリストとなったケニアのエリック・ワイナイナ選手が、招待選手として招かれ、沿道からの多くの声援に励みながら、2時間26分40秒(参考記録)の好タイムで、トップでフィニッシュしました。

この日の那覇市の気温は、午前10時の時点で20度を越え、午後2時33分には最高気温が23・3度を記録するなど、ジヨガーのみなさんにとっては厳しい条件となりましたが、途切れることのない沿道からの熱い声援とボランティアのみなさんの励ましに後押しされ、1万5千90人のみなさんが見事完走を果たしました。

主な紙面

地域とつくる新名所誕生	2
「環境の杜ふれあい」	3
いよいよスタート!障がい者の方のしごとをサポートします	4
放課後は何してあそぼうかなあ	5
情報PACK	6
	7



年頭の
ごあいさつ

那覇市長 西郷雄志

新年明けましておめでとうございます。旧年中、市民のみなさまには、本市政への深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、昨年は、春から教科書検定意見の撤回を求めて、市民・県民運動が盛り上がり、9月の県民大会の開催という大きなうねりとなって国に沖縄の平和への思いを伝えることができました。

誇りを胸にさらなる飛躍を 市民がつくる協働のまち那覇

沖繩戦の実相を後世にどのように伝えるのかということは、平和都市をめざす本市の根幹にも関わる問題でもあり、私も要請行動に積極的に取り組みました。今後の国の動きを注視していきたいと考えております。

一方で、厳しい財政状況を見通しを踏まえ、全庁的な緊急行財政改革運動に取り組んで、徹底的な歳出削減と歳入確保の方策を打ち出しておりますが、「市役所は市民に対する最大のサービス産業」という私の認識は、いささかも変わっておりません。市民サービスの維持・向上と新たな行政需要に対応するためにも、これからの改革を押し進めていかなければならないと考えております。

しかし、改革を進めるためには、市民のみなさまのご理解とご協力が必要不可欠です。私が進める「市民との協働によるまちづくり」は、地域づくりの担い手として市内各地で市民パワーが発揮されるということです。

公園、道路の維持管理、交通安全、防犯、教育、そして環境問題への取り組みと、その範囲も内容もこの数年で大きく広がっています。これらの協働の取り組み、そして協働の実施主体同士が連携し、点が線となり面となつて広がっていく。地域が主体となつて取り組むまちづくり、人が人を支え合う、それが住民自治の理想の姿であると思っております。

昨年11月、那覇市は、自らの創意工夫により優れた施策を実施し、地方自治の充実発展に寄与した自治体として地方自治施行60周年記念総務大臣表彰を受賞しました。その誇りを胸に、市政運営を進めてまいりたいと考えております。

新しい年が、市民のみなさまにとり、幸多き年となることを祈念申し上げます。

2008年(平成20年)元旦